

学年	教科	科目	教科書名	副教材等
中1	社会	地理的分野 歴史的分野	新しい社会 地理 新しい社会 歴史	よくわかる社会の地理1（明治図書） よくわかる社会の歴史1（明治図書） みつけよう？と！歴史資料（とうほう） アクティブ地理総合（浜島書店）

1 学習目標

地理的分野

- 日本の国土および世界の諸地域に関して、地域の事象や地域的特色を理解するとともに、調査や資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付ける。
- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係に着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて、公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付ける。
- 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して身につく日本に対する深い理解、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深める。

歴史的分野

- 日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景にして、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付ける。
- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色を、時期や時代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握して複数の立場や意見を踏まえて、公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それをもとに議論したりする力を身に付ける。
- 歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して身につく日本の歴史に対する理解、日本国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深め、国際協調の精神を身に付ける。

2 授業の受け方

- 教科書の本文を繰り返し読み、書かれている内容について、因果関係を含めて理解する。
- 地図帳、地形図、歴史資料から必要な情報を読み取ったり、情報の特徴や相違点を読み取る。
- 学校で学んだことを、社会で起こっていることと結びつけて、知識に厚みを持たせる。
- 1時間の授業は、受動的な姿勢ではなく、能動的な姿勢で授業に取り組む。教員の説明や資料集などの情報をノートに書き込み、自分なりの学習ノートを作成し、学んだ知識を再構成することに日々取り組む。
- 話し合い活動で、自らが理解したことやそれに対する意見などを他者に、わかりやすく説明できるようになる。
- 自分が理解したことを調べてレポートにまとめて、文章や図表を使って表現する。

3 評価方法

定期テスト、小テスト、提出物（ワーク、長期休業中の課題など）、まとめプリント、授業ノート
授業中の発言、プリントの取組状況

4 授業計画

学期	単元名・学習項目	到達目標
		①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
1	持続可能な社会の実現に向けて (地理) 第1編 世界と日本の姿 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	①景観写真を読み取り、普段の生活や小学校における学習の知識を活用して、これから学習する内容を理解している。 ①緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置をもとに、世界の地域構成を大観し、理解している。 ①我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色をもとに、日本の地域構成を大観し、理解している。 ①世界の人々の生活が、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ②世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度に注目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ②日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置に着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ③世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ③世界の国々の独特な自然景観に関心を高めて、よりよい社会の実現を視野に、主体的に学習していこうという態度を身に付けている。 ③日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	第2編 第1章 世界各地の人々の生活と環境	①世界各地の人々の生活やその変容をもとに、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。 ②世界各地の人々の生活の特色や、その変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。 ③世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	持続可能な社会の実現に向けて (歴史) 第1章 歴史へのとびら	①時代の表し方や時代区分の意味や意義を理解している。 ①資料から、歴史に関わる情報を読み取ったり、年表にまとめたりする技能を身に付ける。 ②歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げて、時代区分とのかかわりについて考察し表現できる。 ③過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教のおこり 2節 日本列島の誕生と大陸との交流	①世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、世界各地で文明が築かれたことを理解している。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会変化の様子を、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ③古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野に、そこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。
2	2節 日本列島の誕生と大陸との交流	①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や、当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとのかかわりをもとに、東アジアの文明の影響を受けながらわが国で国家が形成されていったことを理解している。

	3 節 古代国家の歩みと 東アジア世界 地域の歴史を調べる 第2編 第2章 世界の諸地域 1 節 アジア州 2 節 ヨーロッパ州 3 節 アフリカ州 4 節 北アメリカ州 5 節 南アメリカ州	①律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、資料から歴史に関する情報を効果的に調べてまとめている。 ①摂関政治をもとに、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、資料から歴史に関する情報を効果的に調べてまとめている。 ②農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、農耕の広まりが生活や社会に与えた影響を考察するなど、事象の相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会変化の様子を多面的・多角的に考察して表現している。 ③日本列島における国家形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ③律令国家の形成について、また古代の文化と東アジアとのかかわりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ①アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州で顕在化している課題は、地域的特色の影響を受けて、表れ方が異なることを理解している。 ①アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、地域的特色を大観して理解している。 ②アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州において、これらの地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野に、これらの地域で見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ①アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州で顕在化している課題は、地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
3	5 節 南アメリカ州 6 節 オセアニア州 第3章 中世の日本 1 節 武士の政権と成立 2 節 ユーラシアの動きと 武士の政治の展開	①南アメリカ州・オセアニア州で顕在化している課題は、地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ①南アメリカ州・オセアニア州に暮らす人々の生活をもとに、地域的特色を大観して理解している。 ②南アメリカ州・オセアニア州において、これらの地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③南アメリカ州・オセアニア州について、よりよい社会の実現を視野に、これらの地域で見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ①鎌倉幕府の成立、元寇などをもとに、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立して、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。

		①南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割をもとに、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかわりが見られたことを理解している。 ②武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
--	--	--

学年	教科	科目	教科書名	副教材
中2	社会科	歴史的分野 地理的分野	中学歴史(東京書籍) 中学地理(東京書籍)	社会の自主学習歴史(新学社) 社会の自主学習地理(新学社) みつけよう?と!歴史資料(とうほう) グラフィックワイド地理(とうほう)

1 学習目標

地理を学習することとは「地球全体の各地域の特色を様々な知識を結び付けてまとめる。地域を見る視点(規模)を調整しながら、現在どのような問題が起きて、どのような解決策があるかを考える。」ことである。そのため、言葉を暗記するのではなく、自分の力で言葉の内容や意味を説明できるようにしたり、知識を操作して各地域の特色について正しく理解したり出来るようになることが目標である。現代の国際化社会の中で世界の動きや流れに取り残されることなく、積極的に世界や日本の現状について考え、将来社会に出た時に主体的・中心的に活躍できる土台を築いていくことができるようにする。

歴史の学習は過去の人々の生き方や出来事を通して、未来をより良い社会にしていこうためにはどうしたら良いか?考えていくことです。そのためには、登場人物や出来事を暗記することではなく「なぜそうなるのか?」を考えなければいけません。過去の人々が経験したことや行動したことを通して、将来の自分がどうあるべきか?社会の理想的な姿は何か?といったことを自分で考えられるようになりましょう。

2 授業の受け方

主体的に授業に参加し、仲間と協同しながら課題を解決できる力を養いたい。毎日のニュース・新聞等を資料として身近な問題についても自分の考えをもつことが望ましい。毎時間必ずノートを用意し、配布されたプリントをノートに添付して、必要事項を記入すること。また、板書事項を記入するだけでなく、自ら資料を分析・活用し、能動的な学習に努めること。授業では話し合い活動が行われるため、資料を読み取り、生徒全員が課題意識をもって取り組むこと。仲間の意見を聞くなど、情報を集め、要約し発表する力を身に付けるようにする。また、地理的・歴史的両分野とともに、「暗記」ではなく「理解」し、それらを用いて説明したりすることが大切であると心がけること。

3 評価方法

①定期試験や平常点で評価する。

②平常点については学期ごとに実施する小テスト、まとめプリントや課題の取り組み、発問に対する発言内容等も評価の対象とする。

4 授業計画

学 期	単元名・学習項目	学習のねらい
1	「新しい社会 地理」 第2章 日本の地域的特色と地域区分 ・日本がどのような国かイメージしよう ・地形から見た日本の特色 ・自然災害と防災・減災への取り組み ・地形図の読み取り方(2時間)	○①自然環境, ②人口, ③資源・エネルギーと産業, ④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ, 日本の国土の特色を大観し理解している。 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に, 地域区分をする技能を身に付けている。【知・技】 ○①自然環境, ②人口, ③資源・エネルギーと産業, ④交通・通信について, それぞれの地域区分を, 地域の共通点や差異, 分布などに着目して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。 ○日本の地域的特色を, ①自然環境, ②人口, ③資源・エネルギーと産業, ④交通・通信に基づく地域区分などに着目して, それらを関連付けて多面的・多角的に考察し, 表現している。【思・判・表】 日本の地域的特色と地域区分について, よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。【態度】
	・気候から見た日本の特色 ・自然災害と防災・減災への取り組み ・震災から命を守る ・人口から見た日本の特色 ・資源・エネルギーから見た日本の特色 ・産業から見た日本の特色 ・交通・通信から見た日本の特色 ・日本を地域区分しよう	
	・日本の地域的特色を伝えよう ・日本のエネルギーのあらまし 「新しい社会 歴史」 4章 近世の日本 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ・中世ヨーロッパとイスラム世界 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ヨーロッパ人との出会い ・織田信長・豊臣秀吉による統一事業 ・兵農分離と秀吉の対外政策 ・桃山文化	○ヨーロッパ人来航の背景とその影響, 織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係, 武将や豪商などの生活文化の展開などを基に, 近世社会の基礎が作られたことを理解している。【知・技】 ○交易の広がりとその影響, 統一政権の諸政策の目的に着目して, 事象を相互に関連付けるなどして, 世界の動きと統一事業について, 近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し, 表現している。【思・判・表】 ○世界の動きと統一事業について, そこで見られる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。【態度】
	2節 江戸幕府の成立と鎖国 ・江戸幕府の成立と支配の仕組み ・さまざまな身分と暮らし ・貿易の振興から鎖国へ ・鎖国下の対外関係 ・琉球王国やアイヌ民族との関係	○江戸幕府の成立と大名統制, 身分制と農村の様子, 鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に, 幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 【知・技】 ○統一政権の諸政策の目的に着目して, 事象を相互に関連付けるなどして, 江戸幕府の成立と対外関係について, 近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し, 表現している。【思・判・表】 ○江戸幕府の成立と対外関係について, そこで見られる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。【態度】
2	3節 産業の発達と幕府政治の動き ・農業や諸産業の発展 ・都市の繁栄と交通路の整備 ・幕府政治の安定と元禄文化 ・享保の改革と社会の変化	○産業や交通の発達, 教育の普及と文化の広がりなどを基に, 町人文化が都市を中心に形成されたことや, 各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ○社会の変動や欧米諸国の接近, 幕府の政治改革, 新しい学問・思想の動きなどを基に, 幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。【知・技】

	・田沼意次の政治と寛政の改革 ・新しい学問と化政文化 ・外国船の出現と天保の改革 ・アイヌ文化とその継承	○産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，産業の発達と町人文化，幕府政治の展開について，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。【思・判・表】 ○産業の発達と町人文化，幕府政治の展開について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。【態度】
3章 日本の諸地域	1節 九州地方 ・九州地方をながめて ・自然環境に適応する人々の工夫 ・自然の制約の克服と利用 ・持続可能な社会をつくる 2節 中国・四国地方 ・中国・四国地方をながめて ・交通網の整備と人や物の移動の変化 ・交通網が支える産業とその変化 ・活用される交通・通信網 3節 近畿地方 ・近畿地方をながめて ・大都市圏の形成と都市の産業 ・ニュータウンの建設と都市の開発 ・変化する農村の暮らし 4節 中部地方 ・中部地方をながめて ・特色ある東海の産業 ・特色ある中央高地の産業 ・特色ある北陸の産業 5節 関東地方 ・関東地方をながめて ・世界と結び付く東京 ・東京を生活圏とする人々の暮らしと交通 ・関東地方の多様な産業 6節 東北地方 ・東北地方をながめて ・祭りや年中行事の伝統とその変化 ・伝統工芸品の生産・販売とその変化 ・過去の継承と未来に向けた社会づくり 7節 北海道地方 ・北海道地方をながめて	○幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について，その地域的特色や地域の課題を理解している。 ○①自然環境，②人口や都市・村落，③産業，④交通や通信，⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解している。【知・技】 ○日本の諸地域において，それぞれ①自然環境，②人口や都市・村落，③産業，④交通や通信，⑤その他の事象までで扱う中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。【思・判・表】 ○日本の諸地域について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。【態度】

	・自然の制約に適応する人々の工夫 ・自然の制約や社会の変化を乗り越える ・ 自然の特色を生かした産業	
	5 章 開国と近代日本の歩み 1 節 欧米における近代化の進展 ・イギリスとアメリカの革命 ・フランス革命 ・ヨーロッパにおける国民意識の高まり ・ロシアの拡大とアメリカの発展 ・産業革命と資本主義 2 節 欧米の進出と日本の開国 ・欧米のアジア侵略 ・開国と不平等条約 ・開国後の政治と経済 ・江戸幕府の滅亡	○欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。【知・技】 ○工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，欧米における近代社会の成立について，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。【思・判・表】 ○欧米における近代社会の成立について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。【態度】 ○アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 開国とその影響などを基に，人々の生活が大きく変化したことを理解している。【知・技】 ○工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アジア諸国の動き，明治維新について，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している【思・判・表】 ○アジア諸国の動き，明治維新について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。【態度】
3	2 節 明治維新 ・新政府の成立 ・明治維新の三大改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係 ・国境と領土の確定 ・領土をめぐる問題の背景 ・自由民権運動の高まり ・立憲制国家の成立	○富国強兵・殖産興業政策，文明開化の風潮などを基に，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ○自由民権運動，大日本帝国憲法の制定などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的地位が向上したことを理解している。【知・技】 ○明治維新の諸改革の目的，議会政治や外交の展開などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。【思・判・表】 ○明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。【態度】
	3 節 日清・日露戦争と近代産業 ・欧米列強の侵略と条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国と中国 ・産業革命の進展 ・近代文化の形成 ・まとめの活動	○日清・日露戦争，条約改正などを基に，我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ○我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解している。【知・技】 ○議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，議会政治の始まりと国際社会との関わり，近代産業の発展と近代文化の形成について，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。【思・判・表】 ○議会政治の始まりと国際社会との関わり，近代産業の発展と近代文化の形成について，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。【態度】

学年	教科	科目	教科書名	副教材
中3	社会	歴史的分野 公民的分野	中学歴史・公民 (東京書籍)	ワーク&トライ歴史ⅡⅢ(あかつき) ワーク&トライ公民(あかつき) 歴史の資料(正進社) 公民の資料(正進社)

1 学習のねらい

個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 授業の受け方

生徒は主体的に授業に参加し、仲間と協同しながら課題を解決できる力を養う。毎日のニュース・新聞等を資料として身近な問題についても自分の考えをもつことが望ましい。毎時間必ずノートを用意し、配布されたプリントをノートに添付して、必要事項を記入すること。また、板書事項を記入するだけでなく、自ら資料を分析・活用し、能動的な学習に努めること。授業では話し合い活動が行われるため、資料を読み取り、生徒全員が課題意識をもって取り組むこと。仲間の意見を聞くなど、情報を集め、要約し発表する力を身に付けるようにする。また、地理的・歴史的両分野とともに、公民的分野の学習においても、「暗記」ではなく「理解」することが大切であると心がけること。

3 評価方法

①定期試験や平常点で評価する。

②平常点については授業中のノートや課題の取り組み、発問に対する解答状況等も評価の対象とする。

4 授業計画

学 期	単元名・学習項目	学習のねらい
1	「新しい社会 歴史」 第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略 4節 第二次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景・経過・結果から、戦争の概要を理解する。(知技) ・大戦後の国際協力や民主主義の動きを、大戦の規模や犠牲者の数などと関連付けて考え、表現する。(思判表) ・国際連盟の抱えた課題や問題点を理解し、ヨーロッパの変化を地図資料から読み取る。(知技) ・大正デモクラシーの主張を現代と比較して考え、表現する。(思判表) ・普通選挙の実現などについて、運動の概要を理解する。(知技) ・ファシズムの台頭の様子について理解する。(知技) ・軍部の主張や国民の生活を具体的に調べ、当時の状況から、日本の進路について考え、自分の意見を述べる。(思判表) ・日独伊三国同盟を結んだ日本の行動について、国際的な視野を踏まえて考え、表現している。(思判表) ・日本国内のみではなく、植民地や占領地における状況を理解する。(知技)
	第7章 現代の日本と私たち 1節 戦後日本の出発 2節 冷戦と日本の発展 3節 新たな時代の日本と世界	・終戦後の日本の様子やGHQによる占領政策を、国民生活に着目して考え、表現する。(思判表) ・冷戦が激しくなる中、資本主義陣営の強化をめざしたアメリカが日本の独立を認めていったことを考え、表現する。(思判表) ・冷戦が終結し、国際協調による地域統合が進む一方で、国家を超えた紛争が多発していることを理解する。(知技) ・冷戦後の日本の課題の原因が過去にあり、現在でも続いていることを考え、表現する。(思判表)

2	「新しい社会 公民」 第1章 現代社会と私たちの生活 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方や考え方	・私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。(態度) ・グローバル化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点や、課題について考え、表現する。(思判表) ・文化の具体的な内容を、科学、宗教、芸術の分野を例に挙げ、理解する。(知技) ・みんなが納得できる解決策の在り方について、対立と合意、効率と公正に着目して考え、表現する。(思判表)
	第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障	・日本国憲法の仕組みの特色を、大日本帝国憲法との違いに着目して適切に表現する。(思判表) ・国民民主権とは、どのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解する。(知技) ・自由権が保障されることが重要な理由を、個人の尊重の観点から考察し、表現する。(思判表) ・具体的な事例を基に、日本国憲法で人権を保障することが大切な理由を、自らの学習を振り返りながら粘り強く考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。(態度) ・環境権や自己決定権など「新しい人権」が認められてきた理由について、理解する。(知技)
	第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち	・民主主義に基づく政治についての考察に、章の学習の見通しを持って取り組みようとする。(態度) ・選挙の投票率を上げるにはどうしたらよいか、政治参加に着目して考察し、表現する。(思判表) ・民主政治における物事の決定の仕組みについて理解する。(知技) ・国会が「国権の最高機関」とされている理由について、民主主義に着目して考察し、適切に表現する。(思判表) ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。(態度) ・地方公共団体の財政を支える収入について、本文や資料の読み取りを通して理解する。(知技) ・消費者の権利を守るための制度や法律について、本文の読み取りを通して理解する。(知技) ・より良い消費生活を送るために必要なことについて考察、表現する。(思判表)

3	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済 2節 生産と労働 3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 5節 これからの経済と社会	・私たちが日常生活の中で消費している財やサービスについて調べ、まとめる。(知技) ・株主の権利や責任について、配当や投資と関連付けて考察し、表現する。(思判表) ・正規労働者と非正規労働者の違いについて理解する。(知技) ・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。(態度) ・需要量と供給量とはどのようなことを意味しているかについて理解する。(知技) ・商品の価格が円高、円安によってどのように変動するか考える。(思判表) ・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現する。(思判表) ・現役世代が納める保険料の負担が大きくなっている理由について理解する。(知技) ・四大公害病の経緯や地球環境問題、それらを防止するための住民や国、地方公共団体、企業の取り組みについて、具体的な事例を通して理解する。(知技) ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。(態度) ・地理や歴史での学習をふまえて、領土問題の解決策について考え、表現する(思判表)
	第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本 終章 より良い社会を目指して	る(思判表)